

# 銀の鬼〈第九卷〉

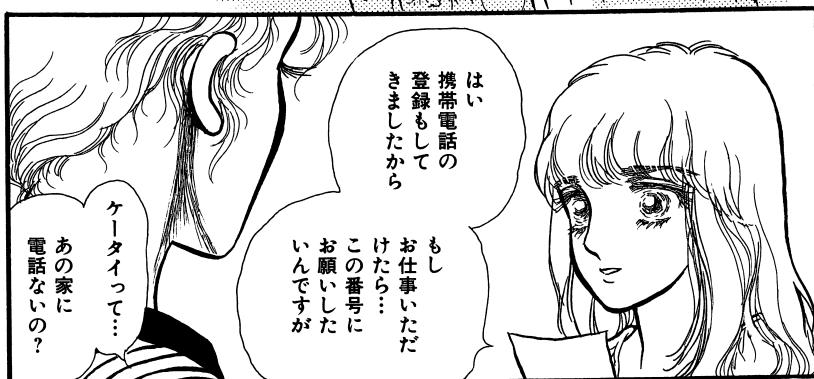
茶木ひろみ



かき☆☆・・・



チラシ配りの  
バイトしたい？



はい  
携帯電話の  
登録もして  
きましたから

もし  
お仕事いただ  
けたら…  
この番号に  
お願いした  
いんですが

ケータイって…  
あの家に  
電話ないの？



私…独立  
するんです

あいつと  
別れたの  
？

そうです…



そうか…  
あいつに頼み  
たいことが  
あったんだけど

ふぶきさん  
いないんじや  
行けないな



あの鉄鎖<sup>てつさ</sup>  
とかいう術を  
かけてほしくてね

自分の前世の  
記憶が戻る  
らしいから

あ…でも

誰でもと  
いうわけじや  
ないみたい

近松くん  
のケースを  
見ると



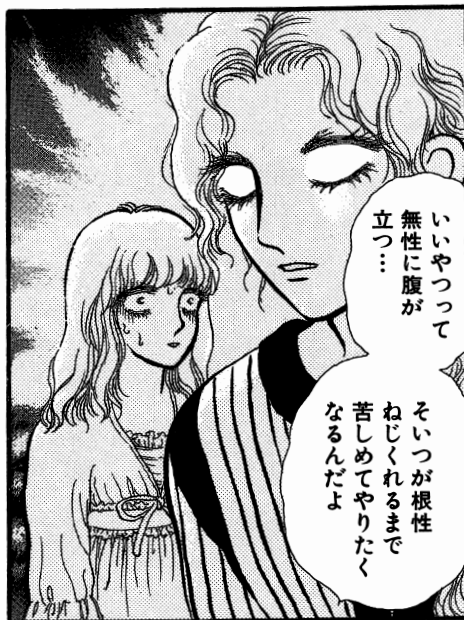
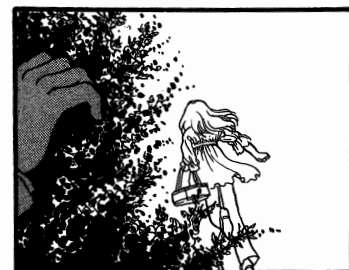
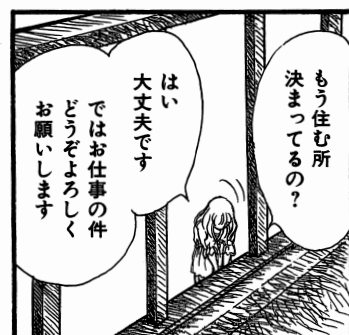
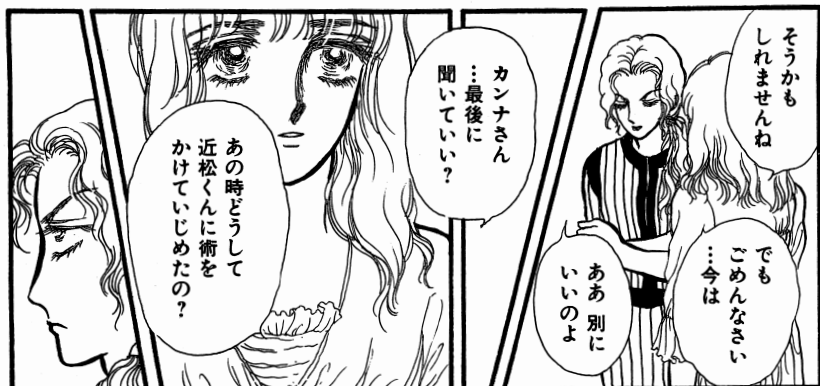
でもあなた  
気になること  
言ったよね

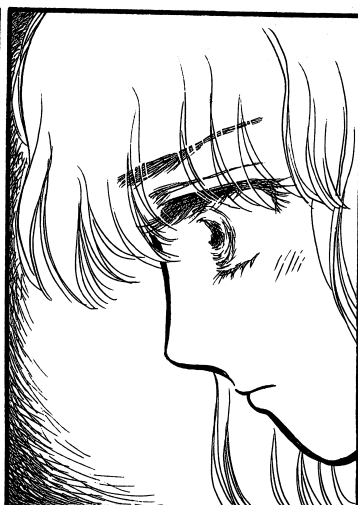
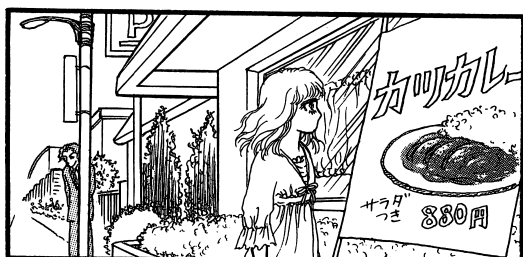
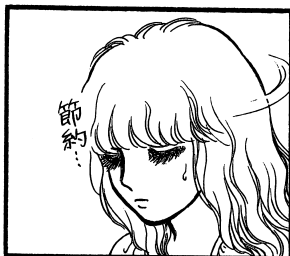
あなたと  
同じように  
私の体内にも  
鬼のツノが  
あるとか…

だったら  
同じ現象が  
起こるかも  
しれないよね

ああ…

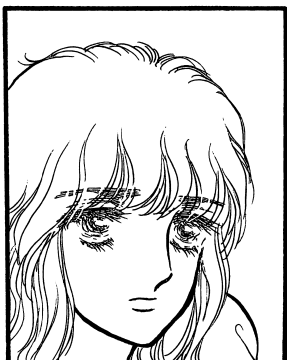
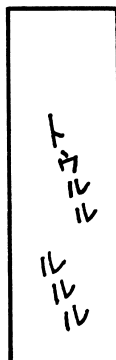
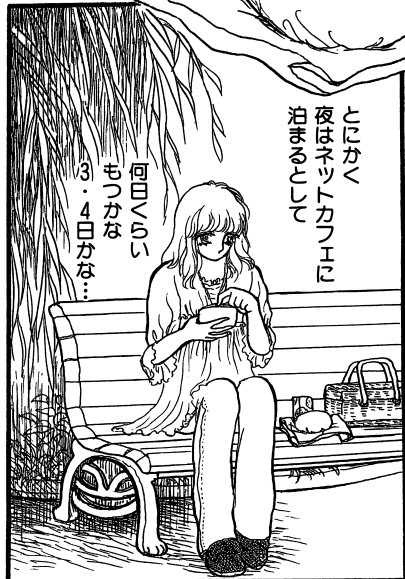
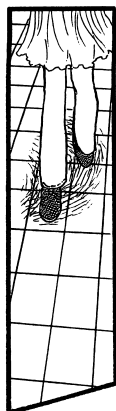
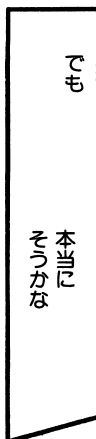
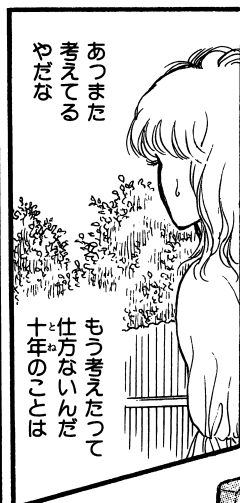


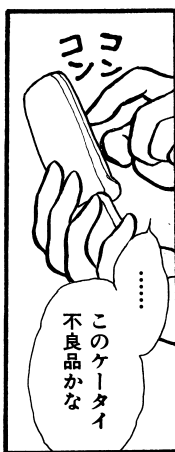
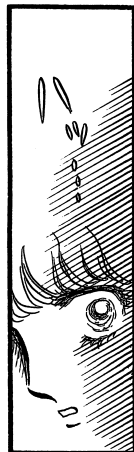
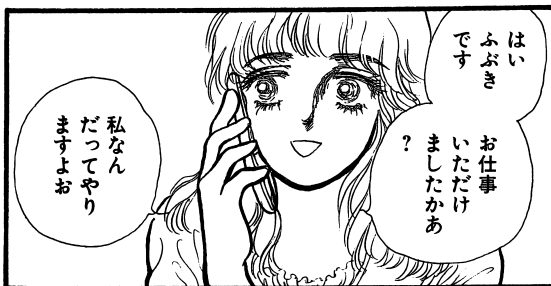




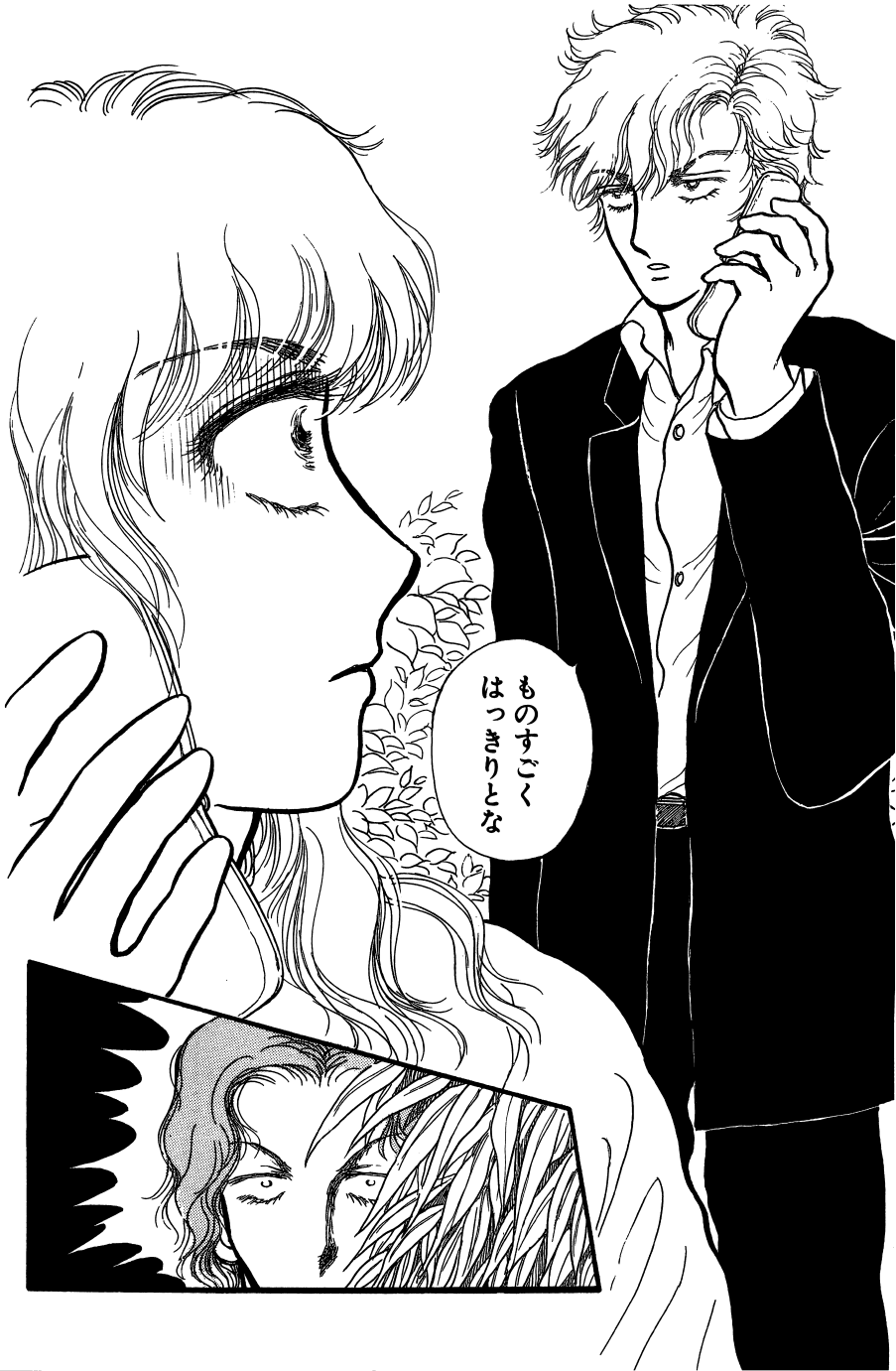
ハンバーガーと  
りんごジュース

そりゃあ  
十年だよ









ものすごく  
はっきりとな



おいそこのグレイの  
幻男うせろ！

おれより卑怯な  
やつにもだボケ

そんな……  
卑怯だわ

これか？  
カンナから  
借りたんだよ

おかげで今度  
鉄鎖<sup>てつさ</sup>をかける  
約束をさせられた

ずっとつけられてた  
のも知らないで  
バカが



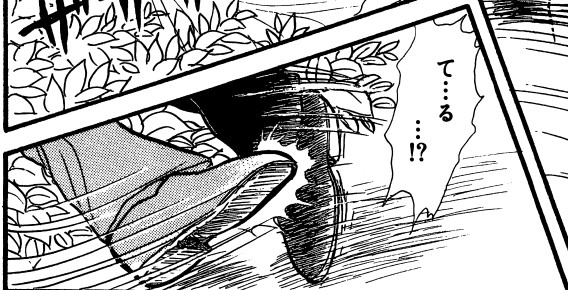
なにが

あいつと  
別れたの？

そうです  
……だ！



ふぶき！  
おまえ  
何考え…



て…る  
…!?



まだいたのか  
この

ドブネズミ!!

ふぶき  
止まれ

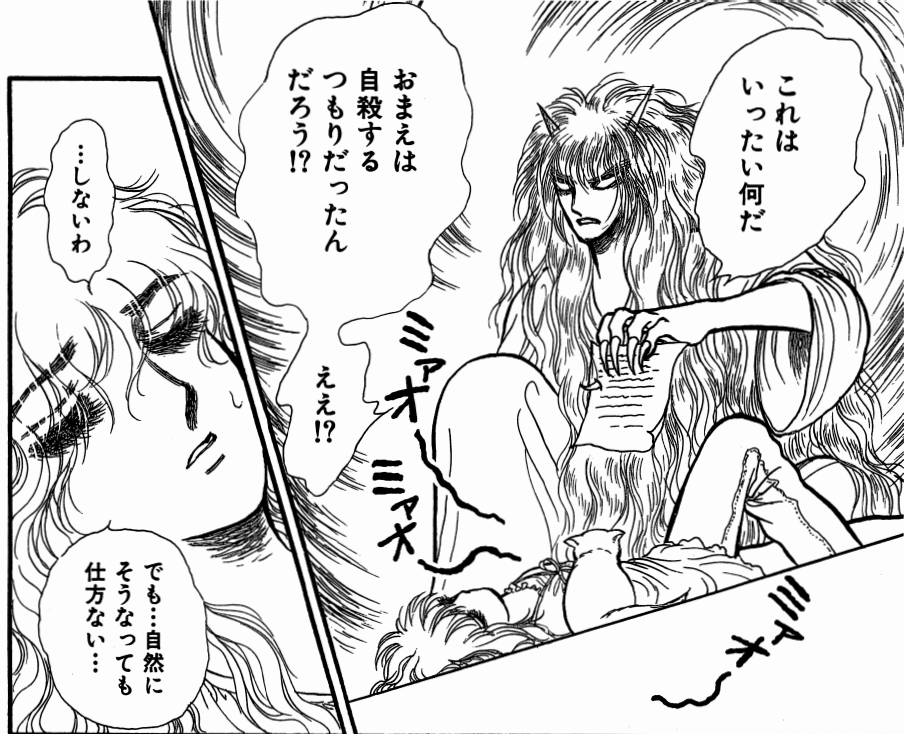
止まらないと

こいつを  
殺すぞ!



十年へ  
このまま私を探さないで  
ください。心配いりません。私は  
どこかで けっこう元気にやって  
いると思いますから。

でももしある日、この家の庭に  
赤ん坊が捨てられていたとしたら、  
その子を私だと思って育ててくだ  
さいませんか。  
元気でね。 ふぶきより



そんなに  
死にたいなら  
おれが殺してやる

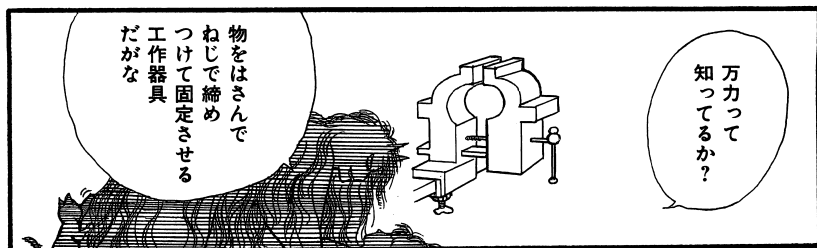
だが楽には  
死なせないぞ

言っただろ  
おれは弱いやつが  
虫酸が走るほど  
嫌いだってな

弱いやつを  
いじめ殺すのが  
おれの生きがいだ

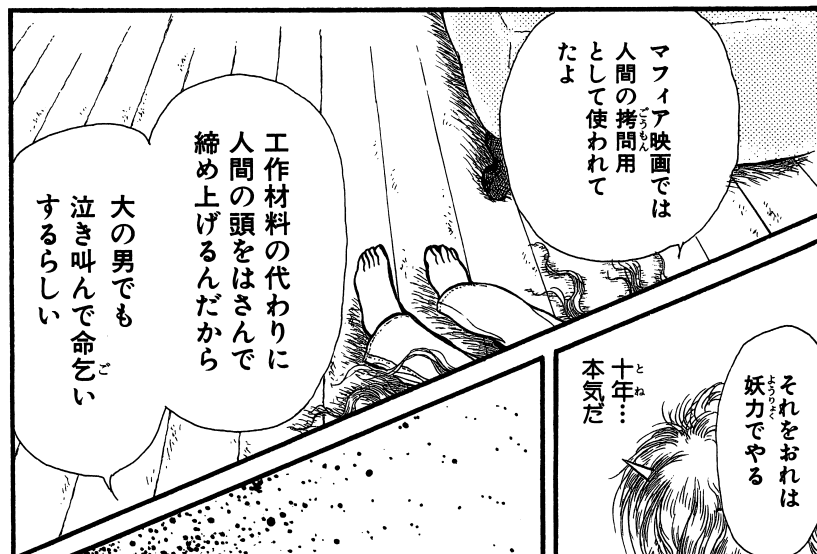
その後  
心臓をえぐり  
出して喰う  
のものな

ようりよく まんりき  
妖力〃万力〃を  
かけてやる



万力って  
知ってるか？

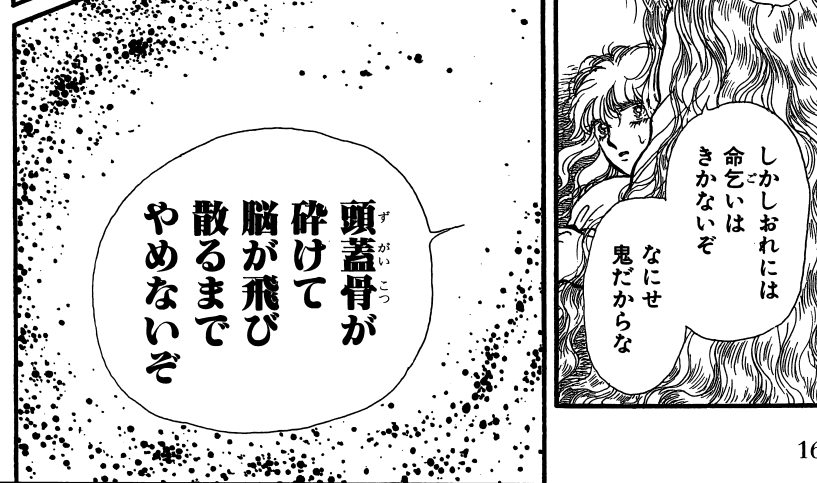
物をはさんで  
ねじで締め  
つけて固定させる  
工作器具  
だな



マフィア映画では  
人間の拷問用  
として使われて  
たよ

工作材料の代わりに  
人間の頭をはさんで  
締め上げるんだから

大の男でも  
泣き叫んで命乞い  
するらしい



それをおれは  
妖力でやる

十年……  
本気だ

しかしおれには  
命乞いは  
きかないぞ

なにせ  
鬼だからな

頭蓋骨が  
砕けて  
脳が飛び  
散るまで  
やめないぞ

じゃあ…  
行くぞ

ようりよく まんりき  
妖力〃万力〃!!

何!?

何かが…  
頭に—!?





相変わらず  
どんな責苦にも  
うめき声を  
上げないな

さすがだな  
だが…  
限界だな





ふぶき  
さらばだ!!

